

- 2015/04/30 学校の地震被害
- 2015/04/29 ネパール救援初動態勢, 世界と日本
- 2015/04/28 震源地ゴルカの被害状況
- 2015/04/27 ネパール震災救援支援
- 2015/04/26 中国と米国, 震災救援に着手
- 2015/04/25 ネパールで大地震, 死傷者多数
- 2015/04/24 ネパール人初の難民認定 [旧記事への追加]
- 2015/04/23 京都の米軍基地 (68) : 翼賛奉仕へ粛々と
- 2015/04/22 ヒマラヤンに警告表示
- 2015/04/21 プラ袋禁止, カトマンズ盆地
- 2015/04/17 女生徒4人, 成績苦に自殺
- 2015/04/12 青年ネパール, 老年日本
- 2015/04/11 エベレスト・トンネルと「新シルクロード経済圏」盟主, 中国
- 2015/04/10 チベット鉄道ネパール国境延伸, 2020年
- 2015/04/07 京都の米軍基地(67) : 米軍イースター布教, 大成功
- 2015/04/06 Republica vs Nepal National
- 2015/04/03 新刊 : 現代ネパールの政治と社会—民主化とマオイストの影響の拡大
- 2015/04/02 花の宝塚とゼロ戦と特攻顕彰碑

学校の地震被害

地震では, 各地の学校が甚大な被害を受けていると思われる。地方の状況はまだわからないが, たとえばカトマンズ市内ディリバザールの[スリョダヤ校](#)。

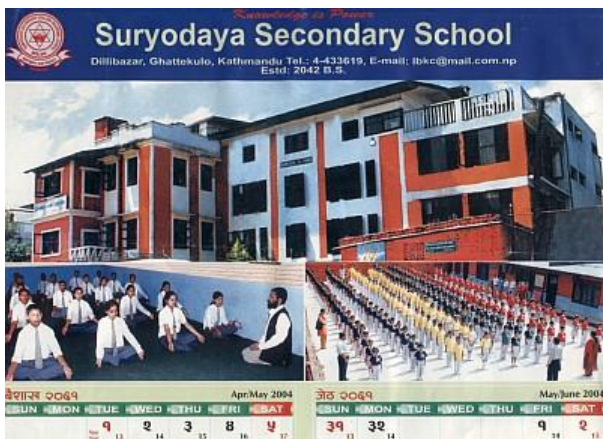
三十年ほど前, 初めて訪問した時は, 他の学校と同様, 電気もない小さな小屋のような学校だった。幸い, 校長が根からの子供好き, 世話好き, 教育熱心だったので, 徐々に拡大し, やがて下図のような格調のある文化財級の古い建物を借りて校舎とし, 子供たちを教え始めた。

この校舎が, 今回の地震で大きな被害を受けた。幸い土曜休日だったので, 校内での子供たちや先生方の被害はなかったようだ。

しかし, 校舎は, 倒壊はまぬかれたものの, 各所に亀裂が入り, 構造部分に大きなダメージを受けたため, このままではもはや授業再開は無理のようだ。

こうした校舎被害は, 他にも多いに違いない。教育分野での被害の拡大も心配される。

▼震災以前の校舎(2004年度学校カレンダー)



▼[震災直後:校舎と校庭避難テント](#)



谷川昌幸 (C)

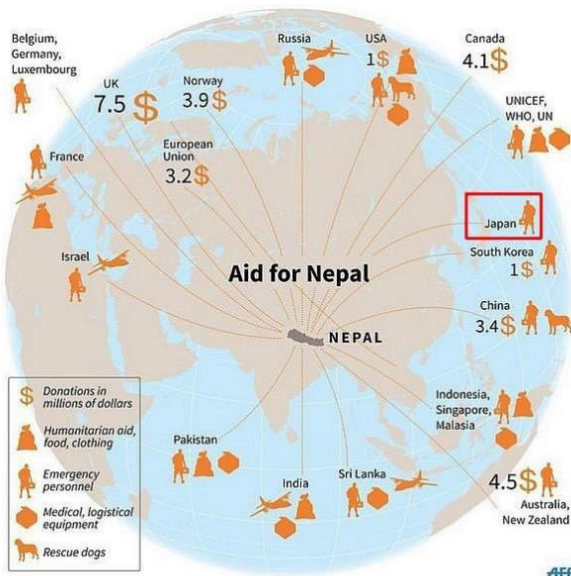
2015/04/30 at 13:04 カテゴリー: [ネパール](#), [国際協力](#), [教育](#) Tagged with [震災](#), [地震](#)

[ネパール救援初動態勢, 世界と日本](#)

下図は、ニューヨーク大学アイアン・ブレマー教授(ユーラシア・グループ代表)がツイッターに掲載し、広くリツイートされ世界中に広まっているもの。右下にAFPとあるが、元の記事は見つけれなかった。

かつて、自衛隊を非軍事的な「国際救援隊」に改組し、どの国にも、どの地域の人々にも警戒されず、世界で最も期待され信頼される救援・支援組織とすべきだという提案がなされ、かなり広く支持されていた。ネパール救援の初動状況を見ると、いま一度、検討されてよい提案である。

▼Who's Helping Nepal(ブレマー教授ツイッター)[□印追加]



谷川昌幸(C)

2015/04/29 at 10:59 カテゴリー: [ネパール](#), [国際協力](#), [情報 IT](#) Tagged with [自衛隊](#), [地震](#), [支援](#)

震源地ゴルカの被害状況

ゴルカは震源地であり、前述のように、村や町の被害が心配されている。ゴルカ出身のバブラム・バタライ元首相(マオイスト)がヘリで緊急視察したところ、全壊に近い村もあるようだ。

ネパールの村々は、急峻な山腹にへばりつくように点在したり、ナイフの刃先のような狭い稜線上に位置するものが多く、素人目にも、揺れや地滑りには極めて弱そうだ。

それらの村々への道路も、山腹を切り開いただけの山道が多く、各所で不通となっていると思われる。ヘリなどの支援はできないのだろうか？

▼ゴルカの村と町(バタライ元首相 FB より)



▼ゴルカ(2009年3月)



[参照]ゴルカ関連記事

[ゴルカの落差と格差:美少女の不幸](#)
[血みどろのゴルカ王宮](#)

[追加]ゴルカ郡だけで, 死者 375 人, 不明多数(Republica, 28 Apr)。

谷川昌幸(C)

2015/04/28 at 11:24 カテゴリー: [ネパール](#), [社会](#), [自然](#) Tagged with [ゴルカ](#), [バブラム・バタライ](#), [地震](#), [支援](#)

[ネパール震災救援支援](#)

ネパール震災被害救援を支援するための募金活動が始まった。以下は, ネットで情報提供されている主な活動(4月27日現在)。



ネパール:大規模地震の被災地に緊急援助チームを派遣

ネパールで25日に発生した大規模地震をうけ、国境なき医師団(MSF)は4編成からなる緊急医療援助チームを派遣する。……さらに、MSFは医療物資など緊急援助物資3000セットを送る予定。……

http://www.msf.or.jp/news/detail/headline_2127.html



ネパール 地震被害緊急支援募金

2015年4月25日に発生した地震により、ネパールおよび周辺国での死傷者は6500人超となり、建物や文化財も多数倒壊するなど甚大な被害がでています。……Yahoo!基金では、これらの被害状況を受けて緊急支援募金の実施をいたします。

<http://donation.yahoo.co.jp/detail/1630016/>



ネパール地震緊急募金

日本ユニセフ協会は、ネパール地震の被害を受けた子どもたちを支援するための「ネパール地震緊急募金」の受付を開始しました。……

http://www.unicef.or.jp/?utm_source=yahoo&utm_medium=cpc&utm_campaign=nepal

日本ネパール協会 ネパール地震被害義捐金の募集

日本ネパール協会は、ネパール国民及び政府、被害を受けられた皆様に対し心からのお見舞いを申し上げますと共に、海外在住ネパール人協会(NRNA)などと連携して、義捐金を募集致します……。

<http://nichine.or.jp/JNS/?p=7771>



日本赤十字社

救援調整のため職員を派遣～ネパール地震災害

国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC)は、各国赤十字社に対して緊急支援を要請する準備を進めています。

http://www.jrc.or.jp/press/150426_003566.html



PM DISASTER RELIEF FUND

The government has appealed to all to make contributions to the Prime Minister Disaster Relief Fund to help with the treatment, rescue and relief of those caught in the Saturday earthquake and to facilitate the unprecedented scale of disaster management.[...] Anyone wishing to make contributions can do so by making deposits to any of the Relief Fund bank accounts:

00100105200270 and 00101102200012 at Everest Bank

002-11-053313 at Nepal Bank

0411010000005 at Global Bank

18013243801 at Standard Chartered Bank

035142 'C' at Nepal Bangladesh Bank

<http://www.myrepublica.com/politics/item/20014-govt-appeals-for-contributions-to-pm-disaster-relief-fund.html>

【追加】



[ネパール中部地震被災者に対する緊急医療支援](#)

AMDA街頭募金

ネパール中部地震被災者に対する緊急医療支援活動のための街頭募金

5月1日(金)12時00分～13時00分、岡山高島屋 正面玄関前あたり

2015/04/27 at 07:57 カテゴリー: [ネパール](#), [国際協力](#) Tagged with [地震](#), [支援](#)

[中国と米国, 震災救援に着手](#)

中国と米国が、いち早く、ネパール震災被害救援に着手した。

中国は、26日、専門家65人からなる救援隊と救急支援用品一式を、特別機でネパールに送り、救援活動に着手する。また、米国大使館も、ただちに100万ドルの緊急支援を発表。USAIDの災害救援隊などが救援活動を始める。

地震の震源はゴルカ、マグニチュードは7.9。死者は約1400人。カトマンズだけで約500人に及ぶ。女性と子供の犠牲者が多い。(日本時間4月26日午前現在)

[参照] [高層ビルの耐震性:モルタル塗り煉瓦壁](#)



EMBASSY OF THE UNITED STATES
KATHMANDU • NEPAL

Home About the Embassy Visas U.S. Citizen Services About the U.S.A. News & Information

you are in: News & Information > Press Releases & Statements > U.S. Mission Contributes to Disaster Relief Efforts (A

News & Information

PRESS RELEASES & STATEMENTS

Facebook 0 Tweet 3 Google+ 0 StumbleUpon 1

Press Releases & Statements

U.S. Mission Contributes to Disaster Relief Efforts

April 25, 2015

The U.S. Mission in Nepal will contribute \$1 million in initial assistance to support disaster relief efforts. A search and rescue team is preparing for their Nepal departure, and in addition, the U.S. Agency for International Development (USAID) has a Disaster Assistance Response Team (DART) on its way. We will continue providing updates.

U.S. News and Culture

We encourage people in the United States to contact the State Department at NepalEmergencyUSC@state.gov or 1-888-407-4747 to provide us with information about U.S. citizens in Nepal who may be in need of assistance.

■ 米国大使館 HP



■ MBS-TV(4月26日)

2015/04/26 at 09:12 カテゴリー: [ネパール](#), [社会](#), [自然](#) Tagged with [地震](#), [支援](#)

ネパールで大地震, 死傷者多数

ネパールで、ラムジュン(カトマンズとポカラの中間付近)を震源とするマグニチュード 7.9 の大きな地震があり、Hindustan Times, The Hindu 等のインド・メディアによると、400 人以上が死亡した。建物多数が崩壊し、地滑り等も発生しているという。まだ情報がごく限られており、各地の被害は不明。震源に近いゴルカや観光地ポカラの被害が心配される。

地震は、午前 11 時 56 分に発生、以後余震が続き、The Hindu によれば、午後 2 時 45 分現在も続いている。

カトマンズ中心部のビムセン(ダラハラ)塔も完全に崩壊。休日で賑わっており、多数の死傷者が出ているのではないかと推測されている。また、旧王宮付近も大きなダメージを受けているという。(日本時間 20 時 23 分記述)



■ 震源 (BBC, 25 Apr)

【地震データ】[USGS](#)

Time: 2015-04-25 06:45:21 UTC

Nearby Cities:

49km E of Lamjung; 69km NW of Kirtipur; 70km NW of Kathmandu

70km NE of Bharatpur; 72km NW of Patan



谷川昌幸(C)

2015/04/25 at 20:27 カテゴリー: [ネパール](#) Tagged with [カトマンズ](#), [ラムジュン](#), [震災](#), [地震](#)

ネパール人「虚偽」難民申請と日本の制度悪

朝日記事「ネパール人留学生、偽りの難民申請、稼ぐため制度乱用」(朝日デジタル 10 月 26 日)が、波紋を呼んでいる。要旨は以下の通り。

ネパール人の留学生や技能実習生らが、次々と難民申請をしている。難民認定申請すると、申請後半年から結果がでる数年後まで身分が保障され、有利な条件で働き、金を貯め、帰国することができるから。

たとえば、ネパール人農業実習生の場合、厳しい長時間労働にもかかわらず、月収は7万円であったが、難民申請後、20万円となった。

このネパール人のような難民申請は、虚偽申請であり制度乱用だが、(1)難民認定に時間がかかりすぎる、(2)外国人労働者雇用制度の不備など、日本の制度にも問題がある。

以上が朝日記事の要旨だが、この問題については、数年前から様々な指摘がなされてきた。

(1)「難民認定申請：名古屋入管、06年19人 → 11年225人に急増」：ネパール人、スリランカ人、パキスタン人など(毎日 2013/1/8)

(2)「難民保護費：相次ぐ不正受給」：愛知県警、ネパール人4人を難民保護費不正受給容疑で逮捕。(毎日 2013/2/9)

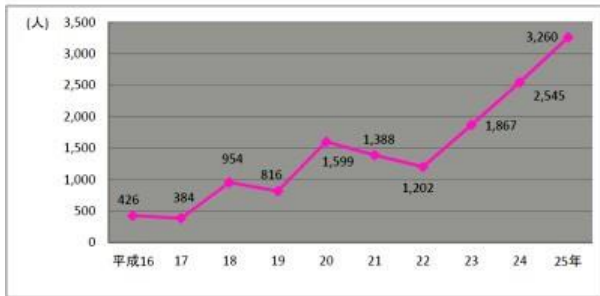
(3)「難民申請、最多の3260人 13年、認定は6人に減」：難民申請トルコ658、ネパール544、ミャンマー380、スリランカ345(共同 2014/3/20)

たしかに、ネパール人難民申請は、急増している。入国管理局によれば、以下の通り。

■難民認定申請者(法務省入国管理局「平成25年における難民認定者数等について」平成26年3月20日)

① 難民認定申請数の推移

	(人)										
	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	
申請数	426	384	954	816	1,599	1,388	1,202	1,867	2,545	3,260	



③ 国籍別難民認定申請者数の推移

	(人)					
	平成23年		平成24年		平成25年	
1	ミャンマー	491	トルコ	423	トルコ	658
2	ネパール	251	ミャンマー	368	ネパール	544
3	トルコ	234	ネパール	320	ミャンマー	380
4	スリランカ	224	パキスタン	298	スリランカ	345
5	パキスタン	169	スリランカ	255	パキスタン	241
6	Bangladesh	98	Bangladesh	169	Bangladesh	190
7	ナイジェリア	52	インド	125	インド	165
8	インド	51	ナイジェリア	118	ガーナ	114
9	イラン	49	ガーナ	104	カメルーン	99
10	カメルーン	47	カメルーン	58	ナイジェリア	68
—	その他	201	その他	307	その他	456
総数		1,867		2,545		3,260

④ 国籍別異議申立者数の推移

	(人)					
	平成23年		平成24年		平成25年	
1	ミャンマー	444	トルコ	296	ネパール	407
2	スリランカ	231	ミャンマー	272	トルコ	406
3	トルコ	213	ネパール	257	ミャンマー	318
4	ネパール	191	スリランカ	206	パキスタン	245
5	パキスタン	142	パキスタン	197	スリランカ	201
6	インド	79	Bangladesh	131	ガーナ	138
7	Bangladesh	72	インド	77	Bangladesh	137
8	ナイジェリア	48	カメルーン	62	インド	126
9	ウガンダ	43	ナイジェリア	49	ナイジェリア	112
10	イラン	39	イラン	37	カメルーン	71
—	その他	217	その他	154	その他	247
総数		1,719		1,738		2,408

2013年度難民認定6人のうちネパール人が何人かは分からないが、ゼロか、いてもごくわずかであることは間違いない。難民認定基準が厳しすぎるにせよ、現行制度を前提とするなら、ネパール人難民申請の多くが、いわゆる「虚偽申請」ないし「制度乱用」に当たるとみざるをえない。

この現状には、いくつか問題がある。第一に、本当に必要な人の難民申請や認定に支障が出るということ。第二に、労働目的の難民申請に非難の矛先が向けられることにより、日本の外国人雇用制度そのものの不当性が隠蔽される恐れがあるということ。

たしかに、現行の制度を前提とするなら、ネパール人難民申請の多くは、いわゆる「虚偽申請」ないし「制度乱用」であろうが、しかし、これは申請するネパール人の側の責任では、断じてない。責任は、あげて日本の外国人労働者制度(特に技能実習制度)や難民認定制度にある。

悪いのは、日本の制度。朝日記事のように、過度にセンセーショナルな見出しをつけると、誤解を招きかねない。かりそめにも、ヘイトスピーチの矛先をネパール人労働者に誘導し、憂さ晴らしをさせるようなことは、してはならない。

【参照1】(2015-2-18 追加)

曾野綾子の透明な歳月の光 労働力不足と移民「適度な距離」保ち受け入れを

最近の「イスラム国」の問題など見ていると、つくづく他民族の心情や文化を理解するのはむずかしい、と思う。一方で若い世代の人口比率が減るばかりの日本では、労働力の補充のためにも、労働移民を認めねばならないという立場に追い込まれている。……

しかし同時に、移民としての法的身分は厳重に守るように制度を作らねばならない。……

ここまで書いてきたこと矛盾するようだが、外国人を理解するために、居住を共にするということは至難の業だ。

もう 20～30 年も前に南アフリカ共和国の実情を知って以来、私は、居住区だけは、白人、アジア人、黒人というふうに分けて住む方がいい、と思うようになった。……

爾来、私は言っている。「人間は事業も研究も運動も何もかも一緒にやれる。しかし居住だけは別にした方がいい」

(産経新聞 2015 年 2 月 11 日付コラム要旨抜粋)

産経新聞 曾野綾子さんのコラムへの抗議文

曾野綾子様 産経新聞社常務取締役 飯塚浩彦様

『産経新聞』2015 年 2 月 11 日付朝刊 7 面に掲載された、曾野綾子氏のコラム「労働力不足と移民」は、南アフリカのアパルトヘイト問題や、日本社会における多様なルーツをもつ人々の共生に関心を寄せてきた私たちにとって、看過できない内容を含んでおり、著者の曾野綾子氏およびコラムを掲載した産経新聞社に対して、ここに強く抗議いたします。

曾野氏はコラムのなかで、高齢者介護を担う労働力不足を緩和するための移民労働者受け入れについて述べるなかで、「外国人を理解するために、居住を共にするということは至難の業」であり、「もう 20～30 年も前に南アフリカ共和国の実情を知って以来、私は、居住区だけは、白人、アジア人、黒人というふうに分けて住む方がいい、と思うようになった」との持論を展開しています。

「アパルトヘイト」は現地の言葉で「隔離」を意味し、人種ごとに居住区を分けることがすべてのアパルトヘイト政策の根幹にありました。また、アパルトヘイトは、特権をもつ一部の集団が、権利を剥奪された他の集団を、必要なぶんだけ労働力として利用しつつ、居住区は別に指定して自分たちの生活空間から排除するという、労働力管理システムでもありました。移民労働者の導入にからめて「居住区を分ける」ことを提案する曾野氏の主張は、アパルトヘイトの労働力管理システムと同じです。国際社会から「人道に対する罪」と強く非難されてきたアパルトヘイトを擁護し、さらにそれを日本でも導入せよとの曾野氏の主張は言語道断であり、強く抗議いたします。このような考え方は国際社会の一員としても恥ずべきものです。

おりしも、このコラムが掲載された 2015 年 2 月 11 日は、故ネルソン・マンデラ氏が釈放されて、ちょうど 25 年目にあたる日でした。その記念すべき日に、南アフリカの人びとが命をかけて勝ち取ったアパルトヘイトの終焉と人種差別のない社会の価値を否定するような文章が社会の公器たる

新聞紙上に掲載されたことを、私たちはとても残念に思います。

曾野綾子氏と産経新聞社には、当該コラムの撤回と、南アフリカの人々への謝罪を求めます。また、このような内容のコラムが掲載されるに至った経緯、および人権や人種差別問題に関する見解を明らかにすることを求めます。以上について、2015年2月28日までに文書でアフリカ日本協議会(AJF)へお知らせくださるようお願いいたします。また、貴社のご対応内容については他の市民団体、在日南アフリカ共和国大使館、国際機関、報道機関などへ公開するつもりであることを申し添えます。

2015年2月13日 (特活)アフリカ日本協議会 代表理事 津山直子

The Letter to Sankei-shinbun and Ms. Sono Ayako in English

13 February 2013

Ms. Ayako Sono, the author Mr. Hirohiko Iizuka, Managing Director, SANKEI SHIMBUN CO.,LTD

Ms. Ayako Sono's column which appeared on the Sankei Shimbun morning edition on 11 February 2015, has inappropriate contents that cannot be overlooked. We, as an NGO which has had concerns about apartheid in South Africa and aspiration for harmonious coexistence of people with various roots within Japanese society, strongly protest against the author of the column as well as against the Sankei Shimbun for running the article.

In the column Ms. Sono, discussed the need to introduce immigrant workers who would provide nursing care for the elderly in Japan and wrote that she felt it extremely difficult to live with foreigners. She also wrote "Since learning about the situation in South Africa 20 or 30 years ago, I've come to think that whites, Asians, and blacks should live separately." (Translation by Japan Times, "Author Sono Calls for Racial Segregation in Op-Ed Piece," 12 February 2015)

"Apartheid" means "separation" in the local language of South Africans. Separating residential areas according to race was the foundation of apartheid policy. Apartheid was also a labor force management system, in which the privileged race deprived other races of their rights by using them as convenient labor. At the same time this privileged race did not let these races remain in their own areas. Arguing for a separate residential area for immigrant workers, as Ms. Sono does, is synonymous with calling for an apartheid system in Japan. It is abominable to defend apartheid, which has been strongly condemned by the international community as a "crime against humanity", and to argue for introducing a similar system in Japan. We strongly object to this opinion. It is a shameful act to express such views as a member of the world community.

Coincidentally, the day the column run, 11 February 2015, was a 25th anniversary of the late Mr. Nelson Mandela's release from the prison. It was very disappointing that we had to find, on this

memorable day, a column which negates the significance that South African people fought, risking their lives, for the end of apartheid and the realization of society without racial discrimination.

We demand Ms. Sono and the Sankei Shimbun retract this column and apologize to the people of South Africa. We also demand an explanation regarding the process in which the column went to press, and your view on human rights and racism. Please send us your written response to Africa Japan Forum (AJF) by 28 February 2015. Please be advised that we intend to inform other NGOs, the South African Embassy, international organizations, and various media companies of any response we receive from you.

Tsuyama Naoko President Africa Japan Forum

(http://www.ajf.gr.jp/lang_ja/archives/sonoayako-sankei20150211.html)

【参照2】(2015-2-25 追加)

亀井伸孝『[『文化が違うから分ければよい』のか—アパルトヘイトと差異の承認の政治](#)』

- ・曾野綾子氏の産経新聞コラム。「人種主義」と「文化による隔離」の二つの問題点。
- ・文化人類学は、南アフリカのアパルトヘイト成立に加担。
- ・黒人の母語使用を奨励する隔離教育。
- ・「同化」を強要しないスタンスが、「隔離」という別の差別を生む温床。

【参照3】**ネパール人夫婦, 難民認定**(2015年4月24日追加)

愛知県豊川市在住のネパール人夫婦が、2015年3月27日、難民認定された。RPP 党员で、マオイストに迫害され、2007年1月観光ビザで来日、2010年難民申請するも2011年不認定。2011年5月、異議を申し立て、これが3月27日認められ、ネパール人初の難民認定となった。

* 中日新聞, 毎日新聞, 朝日デジタル, 2015年4月24日。

谷川昌幸(C)

2014/10/30 at 15:31 カテゴリー: [経済](#), [文化](#), [民族](#), [人権](#) Tagged with [アパルトヘイト](#), [産経新聞](#), [難民](#), [外国人労働](#), [技能研修生](#), [技能実習生](#), [曾野綾子](#), [朝日新聞](#), [人種差別](#)

[京都の米軍基地\(68\):翼賛奉仕へ肅々と](#)

経ヶ岬進駐米軍への翼賛奉仕体制づくりが、米軍主導で、**肅々と**進められている。権力もカネもあるから、住民は翼賛奉仕に加担した方が得策、反対派はじり貧、見る影もない。



■「つかみ取られる日本(!?)」(米軍 FB)

1. 視察・宴会

米軍最前線最先端基地には、米日要人の視察が続々。4月13日には防衛大臣政務官ご一行が、はるばる秘境・経ヶ岬にまで、ご機嫌伺いにこられた。視察後は、もちろん宗主国のための宴会。視察団：防衛大臣政務官・石川博崇，防衛省地方協力局地方調整課長・藤代誠，航空幕僚監部総務部長・荒木文博，中部航空方面隊副司令官・金子真一，中部航空警戒管制団司令・山本祐一ほか(敬称略)。

その数日後(たぶん4月19日)には、京都府の山田知事が視察。日本のメディアはあまり報じないが、誠実な米軍は、ちゃんと報告してくれている。



■防衛大臣政務官等の視察(米軍 FB)／宴会(米軍 FB)



■山田知事視察(米軍 FB)

2. 日米友好協会

地元も盛り上がっている。4月16日には、特定非営利活動法人「京丹後市日米友好協会」が設立された。目的は、「京丹後市民と米国人をはじめとする基地関係者との相互理解と友好関係を増進し、地域社会の安心安全に寄与すること」。

米軍人・軍属およびその家族との交流なのに、なぜ「日米友好」なのか？ 相手は、毎日のように世界のどこかで戦争をしている、世界最強の恐ろしい軍隊。目的と名称が一致していない。が、われらが京都府知事は、もちろん「国益」のため、法人設立を認可した。



■協会マーク(米軍 FB)／協会会合(米軍 FB)

3. 消防協定

その数日後の4月21日には、京丹後市が、「在日米陸軍基地管理隊緊急業務局統合消防本部」という、いかにもおどろおどろしい米軍機関との間で、消防協定を締結した。

「協定書」はまだ未见だが、報道によると、米軍基地で火災が発生した場合、米軍の要請を受け、市の消防隊が消火にあたるのだそうだ。

大丈夫かな？ 基地内は日本の治外法権。しかも、危険物ごろごろ。一応、燃料タンクなどの情報は提供されるそうだが、本当に危険なもの、つまり軍事秘密であり「特定秘密」でもありうる恐ろしい危険物の情報など、ちっぽけな自治体の消防になど教えるはずもない。

それなのに、中山市長は満面の笑みをたたえつつ、米軍統合消防長と固く握手し、「協定書」を取り交わした。市長によれば、「今回の協定によって、米軍の安全と同時に市民の安全も守れることにつながる」(NHK 京都 4月21日)という。

どうして？ 危険きわまりない外国軍基地の火災現場に突入し、滅私奉公させられるのは、市長ではなく、市民を守るはずの消防隊員なのに。



■協定書交換(米軍 FB)



■協定書交換(NHK 京都)／米軍責任者(NHK 京都)

4. エルモ京丹後支部

独立行政法人「駐留軍等労働者労務管理機構(エルモ)」も、たぶん4月上旬に、開設。「経ヶ岬通信所の日本人雇用者のため」だそうだ。それにしても、「エルモ」とは、ちょっと気恥ずかしくなるような、が、いかにもそれらしい、名称ではある。



■開設文書交換(?)(米軍 FB)

*「レーダーサイト火災時の消火協力 京丹後市と米軍が協定 消火設備の事前点検も」産経ネット版, 2015.4.22

*「米軍基地と京丹後市が協定」NHK 京都ネット版, 2015.4.21

* 14th MDB, FB

谷川昌幸(C)

2015/04/23 at 18:43 カテゴリー: [軍事](#), [平和](#) Tagged with [米軍基地](#), [経ヶ岬](#), [Xバンドレーダー](#), [国益](#), [京丹後](#), [滅私奉公](#)

[ヒマラヤンに警告表示](#)

数日前から、ネット版ヒマラヤンタイムズ(<http://www.thehimalayantimes.com/>)に警告表示が出るようになった。



■グーグル警告画面

ヒマラヤンタイムズは、この警告が出るはるか以前(1年くらい前)から、読み込みに時間がかかり、変だなとは感じていた。IT 素人には、HP 構築の単なる不都合なのか、あるいはウィルスか何か危険なものがあるのか、それとも閲覧ソフト(グーグル)またはアンチウィルス・ソフト(マカフィー)の誤作動なのか、全く見当もつかない。

不思議なのは、おそらく、こうした異常はわかっていたはずなのに、ずっと放置されてきたこと。

いずれにせよ、素人は、危なそうなところには近づかないに限る。しばらく様子を見て、警告が出なくなってから、読むことにしよう。

谷川昌幸(C)

2015/04/22 at 08:55 カテゴリー: [情報 IT](#) Tagged with [ウィルス](#)

[プラ袋禁止, カトマンズ盆地](#)

ネパール新年の4月14日、「カトマンズ盆地プラ袋禁止」が宣言され、盆地内ではプラスチック袋の使用が禁止されることになった。(日本では「ポリ袋」が一般的だが、ネパールでは「プラスチック袋」と呼ばれているようなので、略して「プラ袋」と記す。)

根拠は、「プラ袋規制令 2068(2011)」。原典がないので報道からの孫引きだが、これが3月に改正され、4月14日からの施行となった。

- ・カトマンズ盆地内: 厚さ 40 ミクロン未満のプラ袋禁止
- ・カトマンズ盆地外: 厚さ 30 ミクロン未満のプラ袋禁止
- ・罰則: 5 万ルピー以下の罰金または／および 2 年以下の投獄

いつもの通り、大胆かつ先進的な取り組みだ。近隣のインドは 2002 年、20 ミクロン以下のプラ袋製造禁止。中国は 2008 年、極薄プラ袋使用禁止。ネパールでも、2011 年には前述の「プラ袋規制令(2068)」が制定され、以後何回か施行が試みられたものの、そのつど業界団体などが反対、2012 年(2013 年?)には最高裁が「プラ製造業協会(NPMA)」の施行停止請求を認め、禁止命令は停止されてしまった。

これに対し、議会の環境委員会は2014年8月25日、2015年新年(4月14日)からのプラ袋禁止実施を決め、関係機関に通達を出した。今回も「プラ製造業協会」は2015年3月26日、最高裁に施行停止請求を出したが、最高裁は4月7日、この請求を棄却し、その結果、プラ袋禁止が4月14日から実施されることになったのである。

「プラ袋禁止」の管轄は、「科学技術環境省」で、大臣はコイララ首相が兼任している。直接実施に当たるのは、「環境局」。なかなか元気がよい。新年初日には、はなばなしく「プラ袋禁止行進」を敢行し、スンドラやニューロード沿道の人々に代替紙袋を配布した。また、環境局と警察の合同監視団が巡回し、違反を摘発し始めた。

- ・カリマティでプラ袋 280kg 押収(3月11日)
- ・アサン, ラリトプル, カリマティの23卸売店等からプラ袋 400kg 以上押収
- ・盆地入口のタンコット等で検問, プラ袋 200kg 押収

たしかに、ネパールのプラ袋ゴミ問題は深刻だ。様々な数字が報告されている(数値は記事のまま)。

- ・カトマンズのゴミの10%はプラ袋
- ・ネパールのプラ袋使用量 300トン/日(?), カトマンズ 470万袋/日
- ・プラ袋製造所 300~500, プラ袋 3万トン製造
- ・バクマバティ川清掃運動でプラ・ゴミ5千トン回収

ネパールのゴミ問題については、このブログでも繰り返し取り上げてきた。自然素材のゴミなら、道ばたや川に捨てても、しばらくすれば腐り自然に戻っていく。ところが、プラスチックはいつまでも分解せず、堆積し、環境を悪化させる。都市部もそうだが、むしろ悲惨なのは郊外。ちょっと人通りのあるところは、プラ・ゴミが散乱し、美観を著しく損ね、衛生状態を悪化させている。

特にショックだったのは、市街でも郊外でも、**聖牛たち**が生ゴミと混ざったプラ袋をあちこちで食べているのを見たとき。あまりの悲惨、バチ当たりに涙せざるをえなかった。インドが2002年にプラ袋を禁止した理由の一つも、聖牛が食べて病気になったり死んだりしたからだった。この問題については、参照:[ゴミと聖牛](#), [火に入る聖牛の捨身救世](#), [ゴミのネパール](#), [ゴミと糞尿のポストモダン都市カトマンズ](#), [ゴミまみれのカトマンズ](#)





■ プラ袋ゴミを食べる聖牛

しかしながら、プラ袋禁止の実行はなかなか難しい。政府は、紙袋、布袋、ジュート袋を使用せよと呼びかけているが、使用勝手とコスト(5~70 ルピー)に難がある。これらの袋では、肉や魚、あるいは水分の多い他の物品を包み保存したり運んだりするのは難しい。また、コストの面で商店や買い物客にとって負担が大きいのは、いうまでもない。

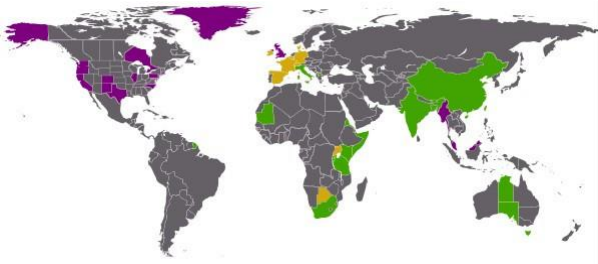
さらに、環境に対して、本当によいのかどうかも、議論の余地がある。特に紙は、製造に多くの水やエネルギーを必要とし、耐久性もなく、ゴミとして処分するとき大気を汚染する。

日本でも、たしか 20 年ほど前、ゴミ袋をポリから紙に替える運動があり、自治体が配布したりもしたが、ほんの 1 年ほどしか続かず、またもとのポリ袋に戻ってしまった。十分な説明なし。それほど、ポリ袋廃止は難しい。

ネパールの今回のプラ袋禁止は、条件付きであり、また禁止基準もあいまいだ。カトマンズ盆地内は 40 ミクロン未満禁止だが、それ以外では、30 ミクロン未満禁止。こんな条件付き禁止の遵守は、實際上、難しいであろう。

事実、コスト高や不便さもあり、いまのところ、プラ袋禁止はほとんど守られていないようだ。政府は、徐々に取り締まりを強化し、禁止の全面実施を実現する計画のようだが、実際には逆に、いつものように、鳴り物入りで華々しく開始されても、あまり守られず、いつしか元に戻ってしまう可能性の方が大きいのではないだろうか。

しかしながら、プラ袋ゴミをこのまま放置しておいてよいわけではない。ゴミの回収・処理を高度化する一方、プラ袋の原材料そのものを植物系に替えていく努力をすべきだろう。もし植物系プラスチック(バイオプラスチック)が普及すれば、たとえ道ばたや川に捨てられても、環境への害は少なく、いずれ分解され自然に戻っていくであろうからである。



■ Plastic bags banned; ■ A tax on some plastic

bags; ■ Partial tax or ban ([Wiki: Phase-out of lightweight plastic bags](#))

- * Republica, 3, 11 & 23 Mar, 14, 16 & 19 Apr 2015
- * Nepali Times, #754, 17-23 Apr 2015 & 23 Mar 2015
- * Kathmandu Post, 7 Apr 2015
- * New Spotlight, 10 Apr 2015
- * China daily, 15 Apr 2015

谷川昌幸(C)

2015/04/21 at 10:07 カテゴリー: [経済](#), [自然](#), [行政](#) Tagged with [ゴミ](#), [プラスチック](#), [環境](#), [聖牛](#)

女生徒4人, 成績苦に自殺

ネパール極西部, インド国境沿いのダトゥ村で4月13日, 女生徒4人が, 学年末試験「不合格」(詳細未確認)を苦に自殺した。6年生(12歳)2人, 7年生(13—14歳)2人。

4人の通う中学校で学年末試験(Final Exam)の成績が発表され, 70人が「不合格」。その成績発表後, 4人は下校し, 途中のマハカリ河畔で, ショールで身体を結び合わせ, 飛び込み, 4人とも死亡した。近くのインド側から住民が目撃しており, 遺体もインド側で発見された。家族の叱責を恐れたからだろうといわれている。



■ Dattu(Daktu)村(Google)

ネパールの学校は, 一般に, 丸暗記・ペーパー試験偏重であり, 競争は過酷だ。特に初等5年, 中等5(3+2)年の終了後に実施される全国統一学力試験(SLC: School Leaving Certificate)は, その成績により進学・就職が左右されるだけに, 親族からの期待もあり, 生徒にとっては大変な重圧となり, 毎年のように生徒が成績を苦に自殺している。

一方、ペーパー試験偏重と対になっているのが、想像を絶する学歴第一主義。エリート教育をウリとする私学が、親族の期待を背に、それこそ託児所から英語で訓練し、有名小学・中学へと進学させる。授業料は高い。

Lincoln School(2011 年)

入学金 \$450, 登録料 \$3,000

授業料(年) \$11,860(1-5 年生), \$13,200(6-8 年生), \$14,700(9-12 年生)

British School (1-6 年生, 2011 年)

登録料 125 ポンド, Capital Development(?) 1,575 ポンド, 預託金 1,035 ポンド

授業料(年) 4,140 ポンド [2015 年の授業料 1,800-8,520 ポンド]

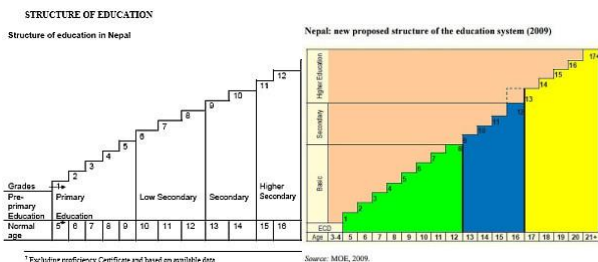
政府認定 A~C グレード私学 授業料(月, 2015 年)

C グレード校 Rs.1,342(1-5 年生), 1,525(6-8 年生), 2,074(9-10 年生)

B グレード校 C グレード校の 25% 増し

A グレード校 C グレード校の 50% 増し

ネパールの学校教育には、未就学に加え、ペーパー試験偏重、学歴至上主義の問題もある。このところ後者の深刻さの方がむしろ目立つようにさえなりつつある。



■ ネパールの現行教育制度／改正案

* Ekantipur, 2015-04-13&14; Republica, 2015-04-13 & 2011-03-05

谷川昌幸(C)

2015/04/17 at 14:38 カテゴリー: [教育](#) Tagged with [私学](#), [英語](#), [SLC](#)

青年ネパール, 老年日本

国家(state)・国民(nation)は、全体として、一つの身体・生命・精神をもつ人間にたとえられることがある。一人の人間と同様、国家・国民も、生まれ、生長し、老い、そして死んでいく運命にある。

では、日本はどうか？ いうまでもあるまい。日本の国家・国民は老い、いまや「後期高齢者」となってしまった。人口構成が高齢化しただけなら、まだしも救いはある。より深刻なのは、精神の老化だ。

たとえば、この4月は統一地方選だが、選挙はいたって低調。知事選は自公民相乗り候補多数、道府県議会は立候補者が定数以下で無投票となった選挙区が 33.4%。選挙となっても、実際の競争は激しくなく、大半は微風程度だ。(下記参照)

日本では国政も地方政治も、少子高齢化、過疎化、貧富格差、財政危機、軍国主義化等々、いまや問題だらけなのに、国民の多くは見て見ぬふり、選挙に関心を示さない。街も村も、テレビも新聞も、いたって静か、選挙など、あつて無きがごとく。平和そのもの。



■ 形骸化した選挙

日本人は、青年も壮年も老人も、みな精神的に老いたのだ。学生運動も労働運動もいまや死語。首相が集团的自衛権を唱え自衛隊を「わが軍」と呼ぼうが、労働者保護を緩め、社会保障を削減しようが、反対らしい反対はほとんど見られない。自由や権利を「不断の努力によつて」保持する(憲法 12 条)気力が萎えてしまったのだ。

日本国民も、青年・壮年期には、そうではなかった。学生も労働者も市民も、問題があれば、積極的に立ち上がり、抗議し、闘った。デモ、ストはいたるところで行われ、バスや鉄道も止まった。もちろん学校も休み。国民がまだ若く、未来があったからだ。

それも今や昔。日本国民は老い、そのために闘うべき未来がなくなった。今日、明日さえ平穏であれば、それ以上は望まない。5年後、10年後のことなど、知ったことではない。

これとは対照的に、ネパール国民はまだ若い。まばゆいばかりの未来がある。だから、何かあれば、過剰と思えるほど反応し、未来のために闘う。議会も街や村もキャンパスも闘いに充ち満ち、ストやバンダ(ゼネスト)は日常化している。

選挙も真剣だ。4月10日投票の制憲議会補欠選挙(バグルン1区、定数1)には、13人(10政党と無所属)が立候補し、投票率73%であった。(NC候補CD・カダガ当選)ネパール国民は、まだ憲法にも選挙にも期待しており、政治への希望を失ってはいない。

ストもバンダも、しょっちゅうやられると、たしかに迷惑だ。が、老化日本の無気力ニヒリズムに比べるなら、少なくとも若さが、未来がみてとれ、そこに希望と救いがあるといっただろう。

【参照】統一地方選投票率(%、朝日&毎日 4月13日朝刊)

福岡県知事選 38.85

広島市長選 42.78

道府県議選:千葉 37.01 埼玉 37.68

名古屋市議選 36.57

無投票当選:道府県議選 33.4(総定数の21.9)

香川県議選 定数の65.9

山形県議選 定数の45.5

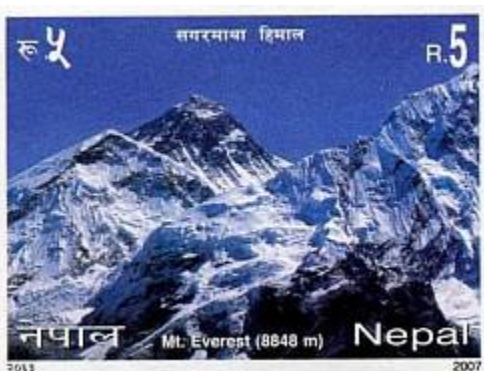
宮崎県議選 定数の43.6

谷川昌幸(C)

2015/04/12 at 18:49 カテゴリー: [政治](#), [人権](#) Tagged with [ニヒリズム](#), [選挙](#), [政治的無関心](#)

[エベレスト・トンネルと「新シルクロード経済圏」盟主、中国](#)

AFP、テレグラフ、デイリーメールなど西洋メディアが、チベット鉄道延伸はエベレスト・トンネル経由だと派手に報道し、ヒマラヤンなどネパールメディアや時事など日本メディアが、これを後追いしている。**世界最高峰エベレスト(チョモランマ、サガルマータ)の横っ腹をぶち抜き、トンネルを通す!** メディアが飛びつきそうなネタだ。が、本当かなあ？



最初の報道と思われるAFPの情報源は、おそらく中国日報のこの記事であろう。Zhao Lei, "Rail line aims for Nepal and beyond," *China Daily*, 2015-04-09. 読んでみると、たしかに紛らわしく不正確な記事だが、少なくとも次のことは読み取れる。

(1)チベット自治区 Losang Jamcan 議長が3月、ヤダブ大統領に語ったのは、2020年までにチベット鉄道をシガツェから吉隆(Gyirong, Jilong)にまで延伸する計画があるということ。

(2)エベレスト・トンネルについて語ったのは、中国工程院(Academy of Engineering)の鉄道専門家 Wang Mengshu 氏。

AFP 等は、この二つの話しをはっきり区別せず、つないでしまったため、読者は次の(1)または(2),あるいはその両方と受け取ることになってしまった。

(1)チベット鉄道ネパール延伸は、エベレスト・トンネルのコース。

(2)チベット鉄道は 2020 年までにカトマンズまで延伸される。

しかし、2020 年までに延伸されるのは、シガツェから吉隆までであり、ここから先は、そのままトリスリ川沿いに南下しカトマンズまで線路を敷設する方が楽だ。吉隆は国境からわずか 35km ほど。経済合理性を考えるなら、中国政府はおそらくこのコースを採用するであろう。

2

ところが、である。中国は、目先のカネ儲けに目がくらむような、ケツの穴の小さな資本主義国ではない。かつては万里の長城を築き、いままた「新シルクロード経済圏」の盟主たらんとしている。すべてのロードは北京に通ず。そして、すべてのカネは、いずれ本家「円」(Yuan[CNY],人民元[RMB])を介し「アジアインフラ投資銀行」等を通して流通するようになる。

その 21 世紀の超大国・中国にとって、チヨモランマ＝エベレストをぶち抜き、トンネルを通し、五星紅旗はためく中国列車を走らせることほど、相応しく誇らしいことはない。

イギリスはマロリーやヒラリーに英帝国の威信を担わせローテク人力でエベレストを征服させた。ネパール・マオイストは、プラチャンダの息子に赤旗を持たせ、やはりローテク人力でエベレストを征服させようとした。

しかし、本家マオイストは、そんな前近代的な、せこいことはしない。世界最高峰エベレストを中国のカネと技術でぶち抜き、五星紅旗列車を走らせれば、中国こそが、世界最高、最先進、最強国家であることが、明白な具体的事実をもって、日々実証される。

21 世紀のエベレスト征服は、まさしくこれをおいて他にはない。中国が、長大トンネル掘削でエベレストを征服すれば、魂も肝も抜かれたエベレストになど、あほらしくて誰もローテク人力で登ったりしなくなるだろう。

3

このチベット鉄道エベレスト路線は、つくりごとでも何でも無い。以前から、シガツェから先は、吉隆路線だけでなくエベレスト路線も検討されていた。エベレストの真下ではないまでも、その近辺を通り、おそらくは何本かトンネルも掘り、カトマンズにいたる。

このエベレスト路線は、観光面から見て有利な上に、やはり中国にとって魅力的なのは、上述のような政治的価値である。中国政府が、エベレスト(の近く)にトンネルを掘り、五星紅旗列車を走らせるとなれば、中国の威信はいやが上にも上がる。だから、政治的に判断するなら、エベレスト路線優先となるわけだ。むろん、中国の国力からして、吉隆路線とエベレスト路線の両方をつくることも、決して無理ではない。長期的には、そうなる可能性大だ。北京、上海からチベット鉄道でエベレストへ行こう!!



■エベレスト・トンネル線 (Dailymail, 9 April 2015) / シガツェー吉隆&Yatung 線 (Global Times, 2014-7-24)

4

このように見るならば、AFP 等の記事は、必ずしも全くの誤りという訳ではない。というよりもむしろ、資本主義国ジャーナリズムが、センセーショナルに騒げば騒ぐほど、中国政府は、してやったりと、ほくそ笑むことになる。「新シルクロード経済圏」や「アジアインフラ投資銀行」の願ってもない絶好の宣伝になるからである。

【中国大使館発表】



Qinghai-Tibet railway to reach Nepal in 2020

2015/04/10

China has announced that it will extend the Qinghai-Tibet railway to the border areas with Nepal within the next five years. The railway will stretch out for another 540 kilometers from Xigaze to Jilong county which sits on the border of China and Nepal.

The announcement was made earlier this month during Neapalese President Ram Baran Yadav's visit to China.

President Yadav applauded the announcement, saying that it fitted into the main aim of his visit which was to promote road and air traffic between Nepal and China.

Nepal has long been expecting that a new Tibetan railway which would extend to the border areas to boost bilateral trade and tourism between the two countries.

Nepal is an important transit point between China and South Asia, and a major chunk of the two countries' expanding trade has been conducted through Tibet. With this newly announced Xigaze-to-Jilong section of the railway in five years, better road and rail connections could be expected between Nepal and China.

Earlier in March when Chinese President Xi Jinping met with Nepalese President Ram Baran Yadav at the 2015 Boao Forum for Asia in south China's Hainan province, the Nepalese President said that Nepal will support China's initiatives of jointly building the Silk Road Economic Belt and 21st-Century Maritime Silk Road as well as the Asian Infrastructure Investment Bank, or AIIB, saying that these are great measures to promote regional connectivity.

Moreover, Nepal also calls for strengthened cooperation between the South Asian Association of Regional Cooperation, or SAARC, and China, in a bid to promote regional interconnectivity and economic development.

<http://www.fmprc.gov.cn/ce/cenp/eng/News/t1253828.htm>

【参照】

[ラサ-カトマンズ, 道路も鉄道も](#)

[青蔵鉄道:シガツェ10月開通, ネパール延伸へ](#)

[初夢は鉄路カトマンズ延伸?](#)

[青蔵鉄道のルンビニ延伸計画](#)

[中国の「シルクロード経済圏」, ネパールも参加](#)

* Zhao Lei, "Rail line aims for Nepal and beyond," China Daily, 2015-04-09

* "TIBET-NEPAL RAILWAY, China may build tunnel under Everest," AGENCE FRANCE PRESSE, 2015-04-09

* "China plans rail tunnel UNDERNEATH Mount Everest," Dailymail, 9 April 2015

* "China-Nepal railway with tunnel under Mount Everest 'being considered'," The Telegraph, 09 Apr 2015

* "China may build tunnel under Everest," Himalayan, 2015-04-09

* "China Plans Strategic High-Speed Rail to Nepal Through Mount Everest," sputniknews.com, 2015-04-10

* 「チベット・ネパール鉄道」中国が計画、エベレストにトンネル?, 時事=AFP, 2015/04/10

谷川昌幸(C)

2015/04/11 at 15:18 カテゴリー: [経済](#), [中国](#) Tagged with [AIIB](#), [アジアインフラ投資銀行](#), [エベレスト](#), [シガツェ](#), [シルクロード経済圏](#), [チベット鉄道](#), [青蔵鉄道](#), [吉隆](#)

チベット鉄道ネパール国境延伸, 2020 年

中国日報(4月7日)が、また上海—チベット鉄道のネパール国境延伸について報道した。

チベット鉄道は、すでに2014年8月15日、ラサ・シガツェ間(253km)が開通。次は、シガツェ・吉隆 [Gyirong, Jilong]間(540km)を2020年までに開通させると、習主席が、この3月のBOAOアジアフォーラムにおいて、ヤダブ大統領に語ったというのだ。



■左より吉隆・シガツェ・ラサ(Google)

このBOAOアジアフォーラムでは、ヤダブ大統領がシルクロード経済圏とアジアインフラ投資銀行(AIIB)への参加を積極的に表明し、中国側を喜ばせた。

もちろん、ネパールには参加のメリット大だ。A.ギリによれば、ネパール政府高官がこう語ったという。——道路等のインフラ建設には巨額の資金が必要だ。「だから、ネパールとしては、400億ドルの基金で始められるシルクロード構想やネパールも創設メンバーになる中国主導アジアインフラ投資銀行を通じた中国からの援助を、さらに多く獲得したいと考えている。」(Amil Giri, "China to extend new aid package: President's visit to Boao asia forum," Ekantipur, Mar 25, 2015)

習主席が約束した対ネ援助は、145億ルピー／年。これによる事業は——

- (1)コダリ道路改良
- (2)ラスワガディーカトマンズ道路建設
- (3)ジヨムソン(ムスタン)—ベニ(ミヤグディ)道路建設

こうして中国援助で「陸のシルクロード」道路整備されていくと、いずれチベット鉄道のカトマンズ乗り入れということになる。国境までが2020年に開通するとすれば、カトマンズ延伸も、そう先のことではあるまい。

それにしても、3月のBOAOアジアフォーラムのことを、また報道したのはなぜか？ 大詰め AIIB 発足へのため押し、景気づけといったところであろうか？



■BOAO アジアフォーラム

谷川昌幸(C)

2015/04/10 at 12:09 カテゴリー: [経済](#), [中国](#) Tagged with [AIIB](#), [アジアインフラ投資銀行](#), [シルクロード経済圏](#), [チベット](#), [チベット鉄道](#)

京都の米軍基地(67): 米軍イースター布教, 大成功

経ヶ岬米軍が、京丹後市の現地住民を招き、「イースターエッグハント——一緒にアメリカ文化体験」を催行した。京丹後市国際交流協会との共催。

イースター祭がキリスト教の宗教儀式であることは、前述のとおり明々白々(参照:[米軍とキリスト教](#))。米軍は正直であり、宣撫すべき現地住民(「原住民」)を招き宗教活動をしていることを、隠しはしない。平然と、こう公言している。

Great Easter event with over 100 children for the Easter Egg Hunt. **Very special service** by COL Revell, 94th AAMDC Chaplin. Thank you to Central Hotel and the Kyotango International association for making it possible.

イースターイベント(復活祭)にて行われたイースターハントに、100名以上の子供たちが参加してくれました。参加者の皆様、そして開催にご協力いただきました京丹後市国際交流協会とセントラール・ホテルに大変感謝致します。第94米陸軍対空ミサイル防衛コマンド チャップリン、ラビル大佐による**特別礼拝**も受けました。(経ヶ岬米軍 FB, 赤強調=引用者; 原文中の「Chaplin=チャップリン」は喜劇王。和製英語では Chaplain と綴る。旧宗主国 OED で確認せよ!)



■参加者(米軍 FB, 子供の顔削除)／京都新聞 4 月 6 日記事(子供の顔削除)



■会場での礼拝(米軍 FB)／礼拝案内(正面左に掲示？, 同 FB)

写真には、イエスや十字架は写ってはいないが、これはどう見ても礼拝(Service)。その宗教儀式、布教・宣教の場に、ほとんどが異教徒のはずの現地の子供と家族多数(約 100 人)が招待され、参加したのだ。

アメリカは、キリスト教を事実上「準国教」とする宗教国家であり、また米語(英語)を「世界共通語」と信じて疑わない英語帝国主義(English Imperialism)の国家でもある。対照的に、現代日本は、宗教と政治を峻別する世俗国家(憲法第 20 条)であり、米語(英語)は多くの外国語の一つにすぎない。日本は、国家の在り方も文化も、米国とは大きく異なる。

しかし、日本は、単に米国と異なるだけではない。困ったことに、日本は、幕末と太平洋戦争の二度の惨めな敗北がトラウマとなり、根深い対米劣等感に憑りつかれている。アメリカが後進国・日本の啓蒙を「天与の使命(Manifest Destiny)」と信じて疑わないのに対し、日本は、そのアメリカの

顔色を常にうかがい、何か言われれば、すぐ恐れ入り、進んで迎合する。その典型が、キリスト教と米語(英語)だ。(参照: [英語帝国主義](#), [安倍首相と英語](#))

しかも、ここで見落としてならないのは、少なくとも米政府当局は、日本を冷静かつ冷酷に分析し、長期的戦略を立て、このような対日政策を目的合理的に遂行しているということ。

アメリカは世界有数の多文化社会。英語以外の言語、たとえばスペイン語を母語とするアメリカ人も多数いるはずなのに、米軍は、スペイン語での交流会を開き、日本の子供やその家族を招き交流しようとはしない。あるいは、キリスト教以外の宗教も、ユダヤ教、イスラム教、仏教など多数信仰されているはずなのに、たとえばイスラム教の宗教儀式を主催し日本人と交流することもない。米軍は、「**アメリカ文化はキリスト教と英語**」というプロパガンダが米国国益に最もかからない、かつ日本に最も有効と見定め、そのフィクションにより日本人を啓蒙・教化しつつあるのだ。

「子供たちは身ぶり手ぶりや片言の英語で軍人と話し、イベントを楽しんだ。」(京都新聞 4月6日)

「身ぶり手ぶりや片言の英語で軍人と話し」たのは、子供だけではあるまい。大人もまた日本側は幼稚なことしか表現できず、米軍人・軍属やその家族は、たとえ2,3歳の子供であっても、会場では圧倒的に優越した上位者の側にあつたにちがいない。こうして、日本側は対米劣等感をインプットされ、ことあるごとに思い知らされ、対米従属に馴致されていく。米国ソフトパワー恐るべし。

米国は正直だ。自分たちが世界最強の武器を持ち、いつでも行使できる恐ろしいワシであることを誇りこそすれ、隠したりはしない。日本でも、イザとなれば治外法権、何でもできる。



■ 経ヶ岬米軍シンボルマーク(米軍 FB)／霊峰富士を撃つ米兵(米軍 FB)

それなのに、われらが同朋は、それを見て見ぬふりをし、子供をすら差し出す。「子供たちは身ぶり手ぶりや片言の英語で**軍人**と話し」たのだ!! 植民地根性が習い性となっているといわれても、いたしかたあるまい。

谷川昌幸(C)

2015/04/07 at 20:53 カテゴリー: [軍事](#), [宗教](#), [文化](#) Tagged with [キリスト教](#), [米軍](#), [経ヶ岬](#), [英語帝国主義](#), [Xバンドレーダー](#), [多文化社会](#), [政教分離](#), [世俗国家](#), [京丹後](#)

Republica vs Nepal National

ネパールのネットメディアには不思議な習性がある。何の予告も案内もせず、ある日突然アドレスを変更、アクセス不能となる。継続して読みたければ、自分で新アドレスを探さねばならない。ちょっと予告しておけばよいのに、それをしないのが、いかにもネパール流。不思議な、読者無視の慣習だ。

今回は、ネパール大手メディアの一つで、International New York Times と連携している Republica(My Republica)。突然のリンク切れで、アクセスできなくなってしまった。あちこち探し、新アドレスを見つけたが、また切れた。新聞そのものは発行しているようだが、こんな不親切では信用失墜、ネット版の読者に見放されてしまう。

これとは対照的にサービス精神旺盛なのが、中国系やオセアニア系、あるいはキリスト教会系。幾度か紹介した中国日報(China Daily)は、無償配布に加えて、奨学金さえ出し、サービスとイメージアップにこれ努めている。参照:[中国日報](#)

オーストラリア Midwest Radio Network の Nepal National も、なかなか使い勝手が良い。ニュース選択センスがよいし、画面もすっきりしていて読みやすい。参照:[Nepal National](#)

また、キリスト教会系ニュースメディア、たとえばローマカトリック教会の Asianews.it も、当然ながら立場が明確であり、たいへん興味深い。参照:[Asianews.it](#)

Asianews.it の中国語版発信趣旨説明によると、中国の大学ではキリスト教への関心が高い。中国通信制大学の調査(詳細不明)では、北京の学生の 61.5%がキリスト教に関心を持ち信者になりたいと願っているという(本当かなあ?)。だから、Asianews.it は、中国語版をネット配信しているのだそうだ。

Asianews.it のネパール向けニュースページも、おそらく、これと同じ趣旨で配信されているのだろう。そして、この Asianews.it のキリスト教関係記事は、上述の Nepal National にも転載されている。オセアニアないし西洋の人々にはネパールのキリスト教関係記事への関心が高い、また、ネパールの人々にもキリスト教への関心を高めてほしい、と Nepal National が考えているからにちがいない。

こうしたことを念頭において今週のネパリタイムズ(3-9 Apr,#752)を見ると、なかなか興味深い。中国日報(China Daily)の広告が出ているのは言うまでもない。そして、記事としては、「ネパール人、しかるのちにカトリック教徒」が目につく。

“First Nepali, then Catholic”



This Easter, Nepal's Catholics fast for spiritual renewal
Cynthia Choo and Stéphane Huët

■ネパリタイムズ記事

このネパリタイムズ記事によれば、キリスト教徒は、2011年全国人口調査で375,699人、全国キリスト教連盟発表で250万人、そのうちカトリックは8,000人。カトリックはまだ少数派だが、キリスト教徒総数はかなり増加している。

記事によれば、信徒であっても、様々な軋轢を恐れ隠れている人々(いわばネパール版「隠れキリシタン」)もいるし、逆に受洗していなくても教会行事には参加する人もいる。こうした状況を考え合わせると、信徒250万人というのも、あながち誇張ではないだろうし、もしそうだとすると、キリスト教はすでに相当の大勢力になっているとみてよいであろう。

Asianews.itは、こうしたネパールの状況をよく見据え、ネパールニュースを発信し、Nepal Nationalはそのキリスト教会系ニュースを転載しているのだろう。

このように、中国系やオセアニア系、あるいはキリスト教会系メディアは、それぞれの得意な方法で、読者へのサービスに余念がない。これに比べ、ネパールメディアは、まだまだ知識身分の特権意識が抜けきらない。「恩恵を恵んでやるぞ」といった上から目線。これでは「士族の商法」、自由競争市場では早晚淘汰されてしまうであろう。

【追加 2015-04-08】

Republicaは、HP再構築が完了したらしく、再び接続できるようになった。が、他のネパールメディアと同様、依然として垢抜けせず、読みにくい。

【訂正補足 2015-04-09】

Nepal NationalはAsianews.itの記事の転載をしているだけでした。上記のように訂正補足します。

谷川昌幸(C)

2015/04/06 at 13:31 カテゴリー: [宗教](#), [情報 IT](#) Tagged with [カトリック](#), [キリスト教](#), [ジャーナリズム](#), [中国日報](#)

[新刊：現代ネパールの政治と社会——民主化とマオイストの影響の拡大](#)



Politics and Society in Modern Nepal: Democratization and the Expansion of the Maoists' Influence, Edited by Naoki Minami and Hiroshi Ishii, Tokyo: Akashi Shoten, 2015

Preface	3
Contents	5
Introduction: Politics and Society in Modern Nepal: Maoists' Expansion of Influence in Local Societies	13
Hiroshi Ishii	
Part One: The Rise of the Maoists and the People's Reaction	
One Switching from Armed Conflict to Parliamentary Politics	35
Kyoko Ogata	
Two Martyr's Images with Maoists: A Case from Okhaldhunga District, Eastern Nepal	91
Kazunori Hatanabe	
Three Three Cases of Collective Internal Displacement in Western Nepal in 2004	135
Kauno Mayumi	
Four On the Transformation of "Politics" in Bhami, Nepal, from ca. 1950 to 2000: Villages, the Panchayat System, Political Parties, and Maoists	171
Kauno Naoki	
Five Development, the People's War, and Federalism: Experiences from Rural Western Nepal	207
Takuro Fujiwara	
Six Changing Nepal and the Focus of the Gandharvas' Songs from Autocracy to Democracy (Jokamta)	231
Junya Mizumoto	
Part Two: The Return of the Maoist Political Party and its Impact on the Societies of Nepal	
Seven Maoists' Theory of the State and Their Manifesto for the Constituent Assembly Election 2008	269
Manayoshi Tsujigawa	
Eight Will the "People's Supremacy" be a Milestone in the Inclusive Politics of New Nepal? Learning from the People's Verdict in the Constituent Assembly Election 2008	305
Malayana Keshav Lari and Mahayana Pancha Narayan	
Nine Ethnic Movements and the Maoists: A Case from the Magars	358
Makiko Hiramatsu	
Ten Support for Political Parties and Recognition of Opposition in Chitwan Village, Chitwan District	383
Kenta Tsubokawa	
Eleven Single Women and Their Human Rights Movement in Nepal	413
Makiko Hatanabe	
Poetry	439
The Modern Political Chronology of Nepal	461
Glossary	466
District Map of Nepal	478
The Original Names of Leading Political Parties	472
Index	478
Contributors	481

現代ネパールの政治と社会——民主化とマオイストの影響の拡大

POLITICS AND SOCIETY IN MODERN NEPAL

Democratization and the Expansion of the Maoists' Influence

はじめに

序章 近現代ネパールの政治と社会——マオイストの伸長と地域社会 石井 溥

第一部 マオイストの台頭・伸長と人々の対応

一章 武装闘争から議会政治へ 小倉清子

二章 マオイストの犠牲者問題——東ネパール・オカルドゥンガ郡の事例から 渡辺和之

三章 西ネパールにおける集団避難二〇〇四年 安野早己

四章 ネパール領ビャンスにおける「政治」の変遷 ——村、パンチャーヤット、議会政党、マオイスト 名和克郎

五章 開発、人民戦争、連邦制——西ネパール農村部での経験から 藤倉達郎

六章 ガンドルバの歌うネパールの変化——王政から国王のいない民主主義へ 森本 泉

第二部 マオイストの政党化とネパール社会

七章 マオイストの国家論と制憲議会選挙公約 谷川昌幸

八章 市民の至上権は新しいネパールにおける包摂的政治の道しるべとなるか——二〇〇八年制憲議会選挙における各政党の得票の動向から マハラジャン、ケシャブ・ラル／マハラジャン、パンチャ・ナラヤン

九章 民族運動とマオイスト——マガルの事例から 南 真木人

十章 チトワン郡チェバン村落における政党支持と抑圧の顕在化 橋 健一

十一章 「寡婦」が結ぶ女性の繋がり——ネパールにおける寡婦の人権運動 幅崎麻紀子

あとがき

ネパール近現代政治史略年表 用語解説 ネパール郡区分図 主な政党名の略語対応表

明石書店 2015年3月31日発行 定価:5,200円+税

Written by Tanigawa

2015/04/03 at 19:22 カテゴリー: [マオイスト](#), [本](#) Tagged with [人民戦争](#)

花の宝塚とゼロ戦と特攻顕彰碑

散歩がてら近所の桜見物に出かけた。公園や古道沿いの桜は満開、ウグイスがさえずり、カワセミ(!)が小川の岸の茂みから小魚をうかがう。春爛漫。

陽気に誘われ、ちょっと足を延ばし——といっても十数分だが——[宝塚聖天\(七宝山了徳密院\)](#)に行くと、ここも満開、スマレや山ツツジなども咲き、まるで別天地。

と、そのとき、上方に巨大なゼロ戦が現れた。おそらく実物大、いまにも出撃しそうだ。ギョッとし、おそろおそろ近づくと、それは戦没者慰霊堂「光明殿」(昭和53年8月建立)の屋上に設置された精巧なモニュメントであった。

この「光明殿」に祀られているのは全国陸海空戦没者250万の英霊ということだが、ここで特に目につくのは予科練(海軍飛行予科練習生)の顕彰・慰霊である。宝塚聖天は以前から知っており、近くを幾度か通ったこともあるが、まったくもって不覚なことに、宝塚とは切っても切れない関係にある、この異彩を放つ光明殿とゼロ戦の存在には、まったく気づかなかった。



■ 宝塚聖天付近(同 HP より)

海軍というと、内陸の宝塚になぜその予科練がといふかしがられるかもしれないが、宝塚には訓練のための適当な建物や用地あるいは川西航空機製作所(その跡地が阪神競馬場)などもあったこともあり、昭和 18 年 8 月「海軍航空隊宝塚分遣隊」が設置され、20 年 3 月には「宝塚海軍航空隊」へと昇格した。本拠は「宝塚新温泉」。

宝塚に集められたのは、第 13 期～16 期甲種海軍飛行予科練習生(甲飛)。年齢は 14～20 歳くらいで各期約 1000 人、常時 3500～4000 人が訓練を受けていたという。

宝塚歌劇場は接收され、大劇場は体操場、音楽学校は通信訓練用、バレエ稽古場は住居として使用された。この間、歌劇団は「移動隊」「唱舞団」「挺身隊」などとして知覧、満州などへの慰問や、川西航空機などへの勤労奉仕に動員された。

宝塚海軍航空隊は、戦況悪化により昭和 20 年 6 月解隊。設置期間は短かったが、ここで訓練を受けた甲種飛行予科訓練生(甲飛)からは特攻要員が各地に送られた(人数不明)。とくに、第 13 期甲飛卒業生の多くは、特攻機に乗ることすら叶わず、人間魚雷「回天」要員に回されたという(人数不明)。また、第 16 期訓練生たちは要塞構築に動員され、昭和 20 年 8 月 2 日、鳴門海峡で米機攻撃を受け、82 名が戦死した。

いまの華やかな宝塚からは、ほんの数十年前、14～20 歳の少年や青年が搭乗訓練あるいは特攻訓練を受け、また清楚で可憐なタカラジェンヌ(ヅカガール)たちが慰問や勤労奉仕に動員されたことなど、よほどのことがなければ想像もつかないだろう。

宝塚歌劇が華麗であればあるほど、桜花が咲き誇れば誇るほど、「宝塚海軍航空隊」は思い起こされてしかるべきである。宝塚観劇の前に、あるいは後に、宝塚聖天に参拝する。宝塚歌劇の感動が、より深く心に刻まれることは、いうまでもない。



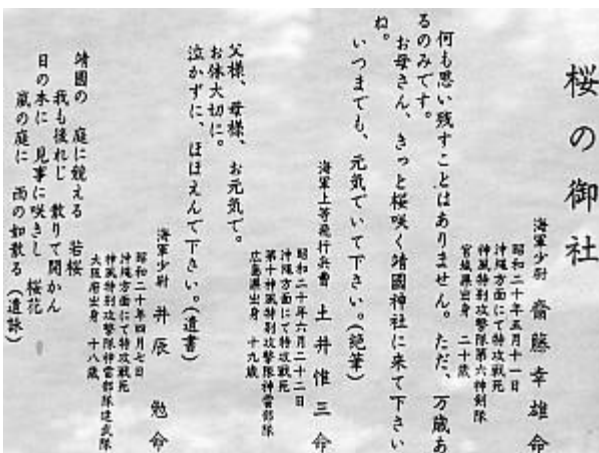
■満開の桜とゼロ戦(寺院境内より)／光明殿(慰霊堂)正面



■光明殿上のゼロ戦／光明殿内



■「神風特別攻撃隊之魁 甲飛十期之碑」／戦死者墓碑(光明殿前)



■遺書・遺詠(光明殿右下)

*「<終戦 69 年 消えゆく証>宝塚聖天／訓練施設跡」神戸新聞 NEXT, 2014 年 8 月 14 日

*「宝塚プラス:花薫り めぐり 100 年」毎日新聞, 2014 年 4 月 15 日

*「衣装を作業服へー戦時下の宝塚歌劇」朝日デジタル

<http://astand.asahi.com/entertainment/starfile/OSK201208130039.html>

*「海軍飛行予科練習生」朝日新聞朝刊広島, 2011年9月1日

*「予科練とは？」(『月刊予科練』平成20年11月号)

<http://www.geocities.jp/bane2161/yokaren.html>

* WIKI「宝塚海軍航空隊」「海軍飛行予科練習生」

谷川昌幸(C)

2015/04/02 at 17:08 カテゴリー: [軍事](#), [平和](#), [歴史](#) Tagged with [ゼロ戦](#), [特攻](#), [回天](#), [宝塚](#)